

2024 年 2 月 27 日

2023 年度聖路加国際大学大学院
看護学研究科修士論文

題目

学校保健からみた小学校の給食の時間・昼休みに関する教員の意識調査

A Survey of Teachers' perceptual roles of School Lunch Times and Lunch
Breaks from the Viewpoint of School Health

学生番号 22-MN-007

氏 名 加藤寛樹

目的 小学校の「給食の時間・昼休み」における教員の職種ごとの課題意識の分析を通して、学校保健からみた教育現場の課題を明らかにすることを目的とする。

方法 期間は、学校法人聖路加国際大学研究倫理審査委員会の研究実施承認後の2023年7月から2024年2月末まで、実施した。選定基準は、X県X市の公立小学校教員かつ学校規模が250人以上500人未満の中規模校に所属かつ本研究の参加について、本人から文書による同意を得られた者とした。X市に勤務する教頭、学級担任、養護教諭計30名を対象に、1人当たり約30分の半構造化面接を行った。研究者加藤が作成したインタビューガイド「給食時間、歯磨きの時間、昼休みの約1時間における意識調査項目」を基に、各教員が大切だと考えて指導している内容や課題などを回答してもらった。

結果 オープン・コーディングの手法で、給食時間開始から昼休み終了までのトータル約1時間における、各教員の意識内容をカテゴリー化し、帰納的にまとめた。分析結果から4つの主要カテゴリーを生成した。それは、【学校環境により学業・労働安全衛生が制限される状態への不適応感】と【教育・学校保健の方針への不統一により生じる健康被害への懸念】、【児童の様子や過ごし方の多様化への対応困難感】、【家庭環境・保護者への配慮】である。【学校環境により学業・労働安全衛生が制限される状態への不適応感】にサブカテゴリーの『非常勤サポーターの存在に頼らざるを得ない人手不足感』が含まれた。また、「水飲み場の不足」により密集回避のため「歯磨き指導」が十分にできないという課題が複数の教頭や学級担任、養護教諭から挙げられた。【児童の様子や過ごし方の多様化への対応困難感】では、主に複数の学級担任がサブカテゴリーの『食物依存性運動誘発アナフィラキシー』や『乳アレルギー』対応で課題意識を感じながら事故防止に努めていた。

結論 「給食の時間・昼休み」の小学校教員のインタビューを通して、学校保健からみた児童に関わる課題は、〈食物アレルギーを有する児童数の増加と多様化〉であり、同じ校内においても教頭や学級担任によって危機意識の高低差があることが、本調査から明らかとなった。また、教員の課題は〈人的環境の不足〉であり、『非常勤サポーターの存在』を含む多職種で業務負担の軽減を図ることが重要であることが明らかにされた。